

学力の概況

【国語A：主として知識】

概況

全体として高い水準にある。特に「話す・聞く」「書く」「読む」能力についての問題での正答率が高い。一方で、語句の知識や語彙力に関する問題に課題が見られる。

特に成果が見られた問題例

「話す聞く能力」に関する問題では、普段から話し合いなどを授業に組み込んでいることなどの成果であると思われる。

特に課題が見られた問題例

正しい漢字を問う問題、意味を問う問題で課題が見られる。また文章を書き直した意図を読み取るなどの問題に課題があると考える。日頃の授業から語彙力を養うことに力を入れていきたい。

【国語B：主として活用】

概況

どの領域、観点ともに平均より正答率は上回っているものの、国語Bの活用の問題における「書く」問題で正答率が落ち、また全国的な傾向と同じく記述式の解答に課題が見られる。

特に成果が見られた問題例

説明文、物語文ともに正答率が全国・府の平均に比べてはるかに高い正答率である。説明文では文章の中心的な部分と付加的な部分などの読み分け、目的に応じて読むなどの日常的に授業で取り組んでいることの成果であると考えられる。

特に課題が見られた問題例

テーマに沿って、与えられた条件を基に、構成を考えて、自分の考えを書く問題に課題が見られる。今後授業の中で構成を意識して、自分の考えを書くという時間を取り入れていきたい。

【数学A：主として知識】

概況

数学Aに関しては、正答率が八割を超えており、全国平均よりかなり高い水準となっている。これにより、基礎的な学力の定着が確認できる。

特に成果が見られた問題例

方程式の基本問題は100%の正答率で、日頃の積み重ねが表れた。また、図形の基本問題に関してもしっかりと理解できている。

特に課題が見られた問題例

数量の関係を文字式に表すことや、作図の方法の理解を求められる問題に課題が見られる。また、1年生の時に学習した近似値の問題の正答率が低い。1、2年生の学習内容について復習することが必要である。

【数学B：主として活用】

概況

正答率は7割弱で全国平均・府平均より上回っているが、知識の活用や、記述式の問いに課題が残されていることがわかる。

特に成果が見られた問題例

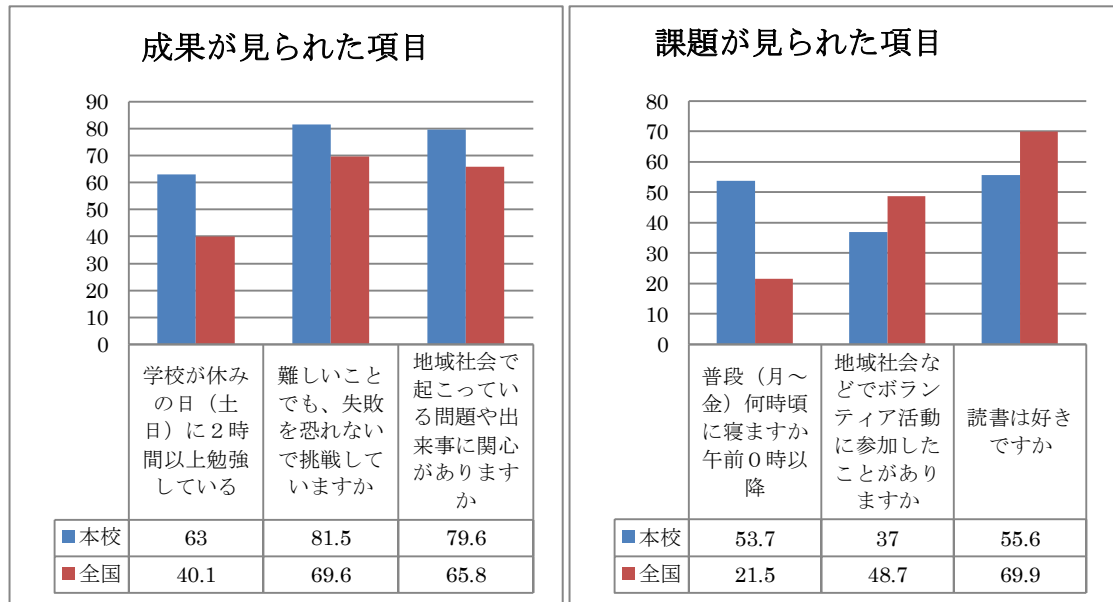
式を求め解いていくことに関しては、全国平均をはるかに上回っている。授業でも時間を費やして学習した成果であると思われる。

特に課題が見られた問題例

グラフと事象の関係を考えたり、問題を解く方法を数学的に説明する力に課題がある。領域としては「関数」と「資料の活用」、観点としては「数学的な見方・考え方」について、今後の課題としたい。

学習状況の概況

生徒アンケート



概況

家庭での学習習慣、学校での学習態度や意欲に加えて教員との信頼関係について肯定的な意見が多く、家庭や地域での安定した生活を背景にして、落ちついて学習に取り組んでいる様子が見えてくる。例年に比べて、学校のことを家で話すと答えた割合がやや低くなっているが、これは今年の3年生の男女比（およそ2対1）に大きく関係していると思われる、取り立てて問題視せずともよいと思われる。

特に成果が見られたアンケート項目例

家庭学習（塾等での学習も含む）については、平日も81.5%が1時間以上取り組んでおり、全国平均・府平均を大きく上回っており、なおかつ計画的に学習していると答えた生徒も57.4%（全国48.4%）と高い。

また、難しいことでも挑戦しようとする生徒が多いのは、別の項目「ものごとを最後までやり遂げてうれしかった」について92.6%であるのと関連性が高いと思われる、成功体験がさらなる挑戦につながっている。

特に課題が見られたアンケート項目例

夜寝る時間が全国平均と比べて圧倒的に遅いのが気になる。テレビを見る時間、ゲームをする時間、スマホ等を使っている時間は総じて全国平均より短くなっているため、これらが原因とは考えにくい。夜遅くまで学習（塾等を含む）しているのだろうが、健康管理に気をつけたいところである。

調査結果を受けて

学校が重点的に取り組んでいくこと

各教科に置いて調べ学習や話し合い活動から発表する機会を多く取り入れています。アンケートでも(46)『総合的な学習の時間』では自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか』について79.9%が肯定しており、全国平均(57.7%)に比べて非常に高い割合となっています。次期学習指導要領にあるアクティブラーニングをいち早く取り入れ、思考力・判断力・表現力の育成に努め、基礎学力と共に、将来子どもたちが変化に対応できる力をつけていきます。

生徒のみなさんにしっかり取り組んでほしいこと

学習に関する設問から、みなさんが前向きに学習している様子が見て取れます。例えば、設問(60)「授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか」に対して、3割以上の人がすぐに先生に質問していると答えています。また、設問(74)では98.1%の人が「数学ができるようになりたい」と思っています。一方で、設問(76)「数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている」人は、37.1%(全国41.9%)と少なめです。数学に限らず、学校で学習することを普段の生活と関連付けてとらえていくようにしましょう。

そして何より気になるのは、就寝時間です。これからは受験に向けて家庭学習の時間が増えていくと思いますが、しっかり睡眠をとって体調を整えることで学習の効果も高まります。規則正しい生活を送るように心がけましょう。

保護者のみなさまに協力してほしいこと

ほとんどの生徒がしっかり朝ごはんを食べて登校し、学習に取り組んでいます。学習塾等に通っていない生徒は9.3%(全国38.9%)で、家庭学習の質も量も全国平均を抜きんでいます。安定した地域・家庭の力を背景に、子どもたちは夢を持って前向きに生活しているようです。

成果と課題のグラフにあるように、8割近くの生徒が地域社会に関心があり、設問(43)「人の役に立つ人間になりたい」と9割以上の生徒が思っているのですが、実際に地域社会でのボランティア等の活動に参加した経験のある生徒は4割を切っています。なかなか中学生にできる活動や時間的に参加できるものが少ないのかもしれませんが、学校でも体験活動を取り入れてはいますが、ご家庭でも様々な体験をさせてあげてください。チャレンジ精神の旺盛な子どもたちは、体験を通じてさらに成長していくことと思います。今後ともご家庭と学校とが歩調を合わせて子どもたちを育てたいよう、ご協力をよろしくお願い致します。